

60th
Anniversary

昔友

Buzanbussei Buyu

題字 田代弘興 貌下

第160号

<http://bussei.gr.jp/>



タイ修好百三十周年記念事業
豊山仏青六十周年事業

日・タイ親善事業

平成二十九年十一月二十七日から十二月一日にかけて
日本とタイの修好百三十周年の記念事業として
また豊山仏青の六〇周年の記念事業の一環として
田代弘興猥下、星野英紀宗務総長、大塚伸夫大正大学学長をお迎えし
日・タイ親善事業が行われました。
今号の巻頭見開きは、その模様と
本事業の事務局員、東京一号の平井敦夫氏のコラムをお送りします

十一月二十八日

前日の夜に羽田空港を出発した木村真弘会長をはじめとする青年会一行が、タイのバンコクに到着します。
前日着の田代弘興猥下、星野英紀宗務総長、大塚伸夫大正大学学長と共に、木村会長は午前中、世界仏教徒連盟(WFB)の会長・事務総長を表敬訪問しました。

午後からは、参加者全員が船でチャオプラヤ川を遡上し、王宮前広場の火葬施設で、前年に崩御されたラーマ九世アミポン国王陛下へ哀悼の意を捧げました。
その後、三島由紀夫の小説「暁の寺」の舞台にもなったワット・アルン寺院へ移動。田代猥下大導師のもと、タイの僧侶と共に、国王陛下の追悼法要を厳修しました。
更には大塔前で、寄贈した仏像の開眼

法要も執り行われ、参加者は、万燈を携えて仏塔を周回しながら祈りをささげました。

十一月二十九日

この日は、アユタヤのマハーチュラロンコンン仏教大学(チュラ仏大)で、星野宗務総長による記念講演が行われました。祈りの場である寺院を巡って仏教文化を感じる四国八十八ヶ所霊場の信仰を英語で講演されます。質問も多数で、充実した議論が交わされました。

終了後は、大正大学とチュラ仏大の両学長との間で、学術協定調印式が行われ、これにより両大学は公式協定校となりました。
同時刻にはワット・アルン寺院で、

国王追悼演奏「千響」の奉納演奏も行われています。上座部仏教国の地に、日本の伝統音楽である太鼓と声明が響き渡り、午後五時半の最終回では、大勢の人々に聴いていただきました。

十一月三十日

最終日、上周一行は日本大使館を表敬訪問し、本事業への協力に対する御礼を述べます。大使からは、今回の事業は日本とタイのすばらしい文化交流であり、友好のさらなる発展を希望する旨の言葉をお寄せいただきました。

盛りだくさんの本事業はこうして全日程を終え、この日の夜、全参加者はスワンナプーム国際空港から一路帰国の途に就きました。



豊山仏青娑婆訶

日・タイ親善事業の一事務局員による仏青賛歌

日・タイ親善事業 実行委員会事務局／東京一号 常泉院 平井敦夫

平成二十九年十一月三十日、深夜二十二時のスワンナプーム空港。ボーイング777は、我々を羽田へと帰すために、巨大な船体を駐機場に横たえていた。

タラップを登り、機内に乗り込んで席を探す。荷物を棚に詰め込み、シートに座って、出されたシャパンを口に含むと、自然と瞼が落ちてくる。疲労と倦怠でまどろむ頭、タイでの四日間が浮かんで消える。あの時あすれば良かった、こうすれば……ほとんどは反省と後悔。しかしこうも思う。ホントに終わったのだろうか。準備にかけたこの三ヶ月に比べれば、四日間などほんの刹那。これは夢か幻だったのではないのかと。

それから三ヶ月、事業にかけた時間と同じだけの時が過ぎた。今、振り返ると、夢幻の思いはさらに深まる。九月の初めに、事業の取りまとめ役を頼まれてからの怒涛の日々。これもまた夢か幻ではなかったのかと。

しかし、この夢幻に感じられる時間の中にも、ある確かな感覚が、私には残っている。人の想い

に触れたという実感だ。

事前に何度もタイへ行きアドバイスくれたOさん。なぜか事態に巻き込まれたのに快く引き受けてくれたMくん。いつもは飲み仲間、今回は心強い愚痴相手のMング。ピシッと法要を決めてくれたMさん。千響を力強く率ってくれたSくん。Oさん。いつもニコニコお金はキッチリのSさん。こちらが無理に頼んでいるのに丁寧に断りのメールをくれたMさん。光明の仕事は任せてと言ってくれたYくん。これ以外にも、ここそこに込められた人々の想い。それは私の中に間違いなく残っている。

我々は大学の基礎講座でこう習う。存在にはそれを成り立たせる固定的実体はない。すなわち諸法無我。存在は他との相互関係により成立する。すなわち縁起。これが仏教の基本的な考え方だ。

まあ解る、頭では、思想としては。けど実際にはどうだろう。生きていると常にもたげてるが自我意識だ。自分があるのは自分の力、自分の考えを通して、自分を良く見せたい。諸法無我も

縁起も程遠い。

しかし、あの夢幻のごとき三ヶ月、私は様々な人の想いを確かに感じた。それは、他者との相互関係において、自己の存在を確かに感じたということだ。仏教徒として正しい意味で、自分は生きていると感じたと言ってもよい。

カレンダーで測れる時間は夢幻。目に見えない人の想いこそが現。生きるとは、夢幻の時間をただ過ごすのではなく、現たる人の想いにどれだけ気づけるか。そう教えてくれたのがこの事業だった。

思うに豊山仏青の存在意義はここにある。しがらみに囚われることなく、人と人が交わり、他者の想いに支えられた自己に気づく場所。

準備と運営に携わってくれた人、参加してくれた人、参加はできなかったけど見守ってくれた人。全ての仏青会員に感謝します。

そして、この豊山仏青を、六十年にもわたって紡いでくれた、過去の全ての会員の皆さまに感謝します。

豊山仏青に幸あれ！

仏青創立60周年を記念して、歴代の会長を代表して五名の会長様にインタビューをいただきました。これから仏青に参加するか迷っている方には金言になる話ばかりだと思います。前会長の皆様、ご多忙のところ、快くご協力をいただき誠にありがとうございました。

歴代会長談話

第26代会長 名児耶 照教

Q.仏青に参加することで得られる経験やスキルなどはありますか？

仏青で得られる一番大切なものは“人とのつながり”です。私が会長の時には、たくさんの人達に助けられました。その中で生まれた“人とのつながり”は私にとってかけがえのないものとなりました。また、経験すること、体験すること。普通に僧侶をしているとなかなか得難いものです。何も出来なくてもまず参加してみて、そこで人とつながって色々なことが膨らんでいくということが“身になる”ということだと思います。また、体験することによって、自坊に持ち帰って活かせることもあるはず。まずは、何も出来なくても参加してみてください。そこからきっと何かを得られるはず。

Q.これからの豊山仏青の後輩へのアドバイスをお願いします。

自分たちが何かをやるうと決めて、その目標に向けて準備をすることは大変なことです。でも、また当日に向けて準備をしていく過程こそ今となって思えば楽しい時間だったのかなとも思います。なので、当日のイベントだけでなく準備の段階から一生懸命参加して、色々なことにチャレンジして欲しいと思います。

第27代会長 鈴木 道盛

Q.任期中に一番思い出に残っていることをお聞かせください。

前会長であられた名児耶会長の代で一つの節目となる50周年事業が行われたこともあり、私達の代からは、51年目からの新たなスタートという気持ちを持って務めてまいりました。何か新しいことを始めたいという想いの中、執行部で話し合い、豊山太鼓千響を立ち上げたこと、また、サントリーホールで声明コンサートを行ったことは一番の思い出となっています。

Q.これからの豊山仏青の後輩へのアドバイスをお願いします。

私自身が以前、先輩からいただいたアドバイスでもありますが、青年会という場所は失敗を恐れず様々なことに挑戦できる場所ですので、難しいと思ったときは、私達が先輩としてアドバイスもしますので、是非、様々なことに果敢に挑戦して欲しいと思います。その中で、色々な人と出会って、色々なことを学んで、色々な経験をしたことを自分のものとして吸収して、今度は自分の後輩たちへと伝えていってください。

第28代会長 高橋 将雄

Q.任期中に一番思い出に残っていることをお聞かせください。

東日本大震災の直後に発足した執行部でしたので、宗派の中でも被災された寺院もあり、つらい気持ちもありましたが、大変な時こそ仲間という意識を強く持って助け合い、協力し合うことの大切さを改めて確認することができました。微力ではあったかもしれませんが、被災地において災害救援活動を行えたことは思い出となっています。

Q.これからの豊山仏青の後輩へのアドバイスをお願いします。

現代は比較的に個々の特性を重んじる部分が多いように感じますが、仏青という集団の中で出会える同じ僧侶の仲間というのは、とても貴重な存在だと思います。同じ苦労や悩みを持つ人達も必ずいると思いますので、そのような分かり合える仲間を仏青の活動を通して見つけて欲しいと思います。

第29代会長 花園 昌道

Q.任期中の思い出などありましたらお聞かせください。

私は第29代の会長を務めましたが、これまでに先輩方々が築いてきてくれた道筋があったので、楽しく活動を行うことができました。前会長である高橋将雄会長がはじめた災害救援活動において何度も被災地へ赴きましたが、被災者の方々へ少しでもお力添えができたことは一番の思い出となっています。

Q.これからの豊山仏青の後輩へのアドバイスをお願いします。

仏青の活動を通して得られる“人とのつながり”は、自分にとって財産になるものだと思います。研鑽を積みながらも楽しい仏青を築いていってください。

第30代会長 根本 聖道

Q.任期中に工夫した点、苦労した点についてお聞かせください。

東日本大震災から数年の月日が経ち、少し薄れてきている意識をもう一度奮い立たそうという想いから、復興チャリティーイベントを東京国際フォーラムで開催しました。一つの大きな事業を成功させるために、みんなの意識を一つにまとめることは大変なことでしたが、多くの方々の協力があったことで達成できたことはとても良い思い出となっています。

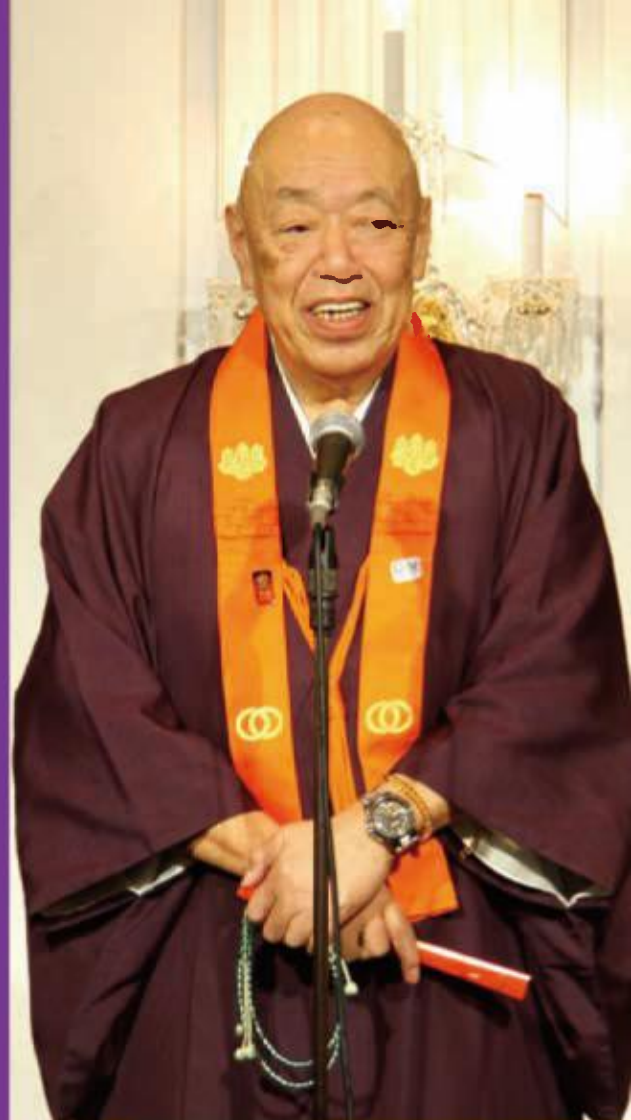
Q.豊山仏青の面白いところや得られる経験などはありますか？

普通に自坊で僧侶としてやっていく分には正直なところ、他のお寺や、僧侶の方々とも深く関わらなくてもやっていける部分もあるのかもしれませんが、自分が一歩外へ出て、色々な人と関わることは、非常に勉強になることであり、間違いなく今の自分にとってプラスになることです。私自身、仏青を通して得た経験などは自分の血となり肉となり、自坊へと還元出来ています。地域によって北から南まで伝統であったり、考え方が違ったりすることもあります。そういう方々と触れ合い、意見を交換し、親交を深められることが仏青の意義でもあると思うので、是非、自坊から外へと勇気をもって一歩踏み出して欲しいと思います。



真言宗豊山派 仏教青年会創立六十周年 記念レセプション

平成三十年二月二十八日（水）、ホテルニューオータニ「鳳凰の間」において真言宗豊山派仏教青年会六十周年記念レセプションが催されました。ご来賓として、田代弘興猊下、星野英紀宗務総長をはじめ、これまで豊山派仏教青年会に関わってこられた先輩の方々をお招きし、盛大なお祝いとなりました。たくさんのお話もいただき、創立六十周年記念の催しに相応しい素晴らしいレセプションとなりました。豊山派仏教青年会が、いかにたくさんの諸先輩方によって支え、紡がれてきたのかということを確認出来ました。私達も先輩方達がそうしてきたように、次代へ向けて、しっかりとタスキを繋げていきたいと思いました。



写仏講座

豊山仏青では写仏講座を行っております。興味のある檀信徒さまがいらつしやいましたら、是非ご案内ください。

平成30年

4月13日(金)

5月11日(金)

6月22日(金)

午後1時より宗務所にて

詳細につきましては豊山仏青ホームページをご覧ください。

また豊山仏青ホームページ、写仏講座中の「写仏を体験してみよう」では、体験コーナーをご用意しております。なぞってみたり、お子さまの塗り絵としても、ご利用ください。

編集後記

今号では、日・タイ親善事業と仏青創立六十周年記念レセプションの二つの事業を掲載しました。次号掲載する写仏事業と記念出版事業の二つの事業をもちまして六十周年事業の特集も終わりを迎えます。

さて、三月いっぱいまで、私達、木村執行部の任期は満了となり、新たな体制でのスタートとなります。二年間、至らぬところばかりではありましたが、豊友の編集を通して、様々な経験を積むことが出来たと思っております。歴代会長に頂いた話の中にもありましたが、私自身も二年間の活動を通して思うことは、意外と準備している時が楽しかったなということです。イベント満載の執行部だったので、準備の段階で揉めることもありましたが、もっと上手く出来たなと思うことも正直ありますが、それも含めて今となっては笑い話であり、良い思い出です。今後は、この二年間で得た経験をしっかりと寺坊の方へ活かしていきたいと思っています。二年間、お世話になりました！

広報 篠山昌弘

■お詫び

前号の総登嶺を特集したページにて、写仏を奉納いただいた木下先生のお名前を誤って木下啓弘師と表記してしまいました。正しくは、木下榮弘師でございます。木下先生をはじめ、読んで頂いた皆様に不快な思いをさせてしまったこと、心よりお詫び申し上げます。

写仏講座・千饗チャリティー演奏は

豊山仏青

検索



Facebook

www.facebook.com/buzanbussei/

豊友お問い合わせ先

info@bussei.gr.jp



豊友 第160号

平成30年3月20日発行

発行人 木村真弘

発行所 〒112-0012 東京都文京区大塚5丁目40番8号
真言宗豊山派宗務総合庁舎内 真言宗豊山派仏教青年会

デザイン・印刷 株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション